

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月9日
【四半期会計期間】	第14期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社駅探
【英訳名】	Ekitan & Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中村 太郎
【本店の所在の場所】	東京都港区西麻布四丁目16番13号
【電話番号】	03-6367-5951
【事務連絡者氏名】	取締役コーポレート部長 秦野 元秀
【最寄りの連絡場所】	東京都港区西麻布四丁目16番13号
【電話番号】	03-6367-5951
【事務連絡者氏名】	取締役コーポレート部長 秦野 元秀
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第2四半期累計期間	第14期 第2四半期累計期間	第13期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	1,336,044	1,445,756	2,786,109
経常利益 (千円)	236,160	275,000	443,193
四半期(当期)純利益 (千円)	151,412	181,751	273,001
持分法を適用した場合の投資損失 (千円)	7,032	12,604	1,964
資本金 (千円)	291,956	291,956	291,956
発行済株式総数 (株)	6,888,800	6,888,800	6,888,800
純資産額 (千円)	1,689,975	1,937,066	1,759,679
総資産額 (千円)	2,387,478	2,578,835	2,525,186
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	29.18	34.86	52.62
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	34.33	-
1株当たり配当額 (円)	10.00	10.00	20.00
自己資本比率 (%)	70.8	75.1	69.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	154,966	220,145	435,716
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	30,637	9,183	149,268
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	91,953	44,349	183,957
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,363,158	1,599,884	1,433,273

回次	第13期 第2四半期会計期間	第14期 第2四半期会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	14.54	18.49

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第13期第2四半期累計期間及び第13期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第1四半期会計期間より報告セグメントの名称を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて変更があった箇所は以下のとおりです。

ストック・オプション等に関するリスク

当社は、会社業績向上に対する士気高揚のため、インセンティブ・プランとして、取締役に対するストック・オプションとしての新株予約権を発行しております。またストック・オプションについては、今後もインセンティブ・プランの選択肢の一つとして継続的な活用を検討しております。

平成27年8月に新株予約権のうち86,400株分が行使されたため、現在付与されている新株予約権の目的となる株式の数は313,600株であり発行済株式総数6,888,800株の4.6%に相当します。行使にあたっては自己株式を充当する予定であります。これら新株予約権が行使された場合もしくは将来新たに付与される可能性のある新株予約権の行使による潜在株式の顕在化に伴い、1株当たり当期純利益金額が希薄化した場合、株価形成に影響を及ぼす可能性があります。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間における業績は、売上高は1,445,756千円（前年同四半期比8.2%増）、営業利益は275,730千円（前年同四半期比16.3%増）、経常利益は275,000千円（前年同四半期比16.5%増）、四半期純利益は181,751千円（前年同四半期比20.0%増）となりました。

当社の主力事業である乗換案内サービスは、日常生活での人々の移動をサポートする、利用頻度の高いサービスとして世の中に広く定着しており、生活情報系サービスとの組み合わせなど様々な事業展開に応用できると考えております。一方で、個人及び法人ユーザーのニーズの多様化や、スマートフォンの普及に伴う無料サービスの一般化等、環境変化は著しく、これら変化に対応すべく事業領域の拡大や新たなビジネスモデルの確立が課題となっております。このような状況において、当社は既存事業における収益の安定化を図りつつ、新たな事業領域の開拓や更なる成長のための研究開発、マーケティングを行うなど事業拡大に注力してまいりました。

当第2四半期累計期間の売上高につきましては、前年同四半期と比べて増加しました。コンシューマ向け事業のうち、有料会員サービスにおいては、乗換案内サービスや会員優待サービス等の高単価メニューを中心とした広告販促活動を積極的に展開し、有料会員拡大と有料会員1人当たり単価の向上に向けた施策を実施しました。また、(株)NTTドコモが提供する「スゴ得コンテンツ」「dメニュー」「iMenu」等、携帯電話キャリア向けの乗換案内サービスの提供も順調に推移しております。広告は、パソコン・スマートフォンともに、ページビューが安定的に確保できていることによりアドネットワークを中心に堅調に推移しました。

また、昨年12月より開始しましたトラベル事業につきましては、乗換検索結果から旅行プランをスムーズに選択し申し込みができる高いユーザビリティに対し高いご評価を頂くとともに、東海道・山陽新幹線に加え、4月より北陸・東北新幹線など対象路線を拡大したことや夏季レジャーシーズンにおける需要増加等により、申込件数は順調に伸びいたしました。

法人向け事業は、一部顧客との契約内容の見直し等の影響があったものの、既存取引先からの受注の安定確保及び取引深耕、ならびに新規案件の獲得に向けた積極的な営業活動を展開するとともに、将来の事業拡大に向けた海外企業との提携も推進いたしました。

利益につきましては、営業利益以下、各区分利益において前年同四半期と比べて増加いたしました。有料会員獲得のために積極的な販促活動を展開しつつも、各施策において、より効率的に販促費を投下したことにより売上高の伸張に対し広告販促費が抑制されたこと等が主な要因となっております。

前述の取り組みの結果、各セグメントの売上高及びセグメント利益は次のとおりとなりました。

コンシューマ向け事業の売上高は1,107,006千円（前年同四半期比10.1%増）、セグメント利益は303,054千円（前年同四半期比29.1%増）となりました。

法人向け事業の売上高は338,749千円（前年同四半期比2.4%増）、セグメント利益は105,273千円（前年同四半期比16.5%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は2,118,301千円で、前事業年度末に比べて118,546千円増加しております。売掛金の減少54,618千円があったものの、現金及び預金の増加166,611千円が主な要因であります。当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は460,533千円で、前事業年度末に比べて64,897千円減少しております。工具器具備品の減少19,126千円及びソフトウェアの減少41,988千円が主な要因であります。

(負債の部)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は431,413千円で、前事業年度末に比べて83,776千円減少しております。未払金の減少55,795千円及び役員賞与引当金の減少21,080千円が主な要因であります。当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は210,356千円で、前事業年度末に比べて39,960千円減少しております。長期借入金の減少40,000千円が主な要因であります。

(純資産の部)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は1,937,066千円で、前事業年度末に比べて177,386千円増加しております。剰余金の配当が51,884千円発生したものの、ストック・オプションの行使による自己株式の減少44,431千円及び四半期純利益181,751千円を計上したことが主な要因であります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物の残高は前年同四半期に比べ、236,726千円増加し、1,599,884千円（前年同四半期比17.4%増）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益272,353千円、法人税等の支払額75,319千円等を計上したことにより、220,145千円の資金を得る結果（前年同四半期は154,966千円の資金を得る結果）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出745千円、無形固定資産の取得による支出8,438千円があり、9,183千円の資金を支出する結果（前年同四半期は30,637千円の資金を支出する結果）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、ストックオプションの行使による収入47,520千円があったものの、配当金の支払額51,869千円及び長期借入金の返済による支出40,000千円により、44,349千円の資金を支出する結果（前年同四半期は91,953千円の資金を支出する結果）となりました。

(4) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は6,615千円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,635,200
計	25,635,200

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,888,800	6,888,800	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株で あります。
計	6,888,800	6,888,800	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	6,888,800	-	291,956	-	291,956

(6)【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社CEホールディングス	北海道札幌市白石区平和通15丁目北1番21号	1,700,000	24.68
インクリメント・ピー株式会社	神奈川県川崎市川崎区日進町1番地14	588,000	8.54
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	東京都港区台場2丁目4番8号	543,000	7.88
モルガン・スタンレーMUF G証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目9-7	69,400	1.01
松井 榮藏	大阪府豊中市	50,000	0.73
太田 和幸	東京都八王子市	49,200	0.71
松岡 真二郎	宮城県仙台市青葉区	40,000	0.58
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目9-1	38,500	0.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	35,200	0.51
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	33,500	0.49
計	-	3,146,800	45.68

(注) 上記大株主の状況の欄には、当社が所有する自己株式を除いております。当社は自己株式を1,613,916株所有しており、発行済株式総数に対する所有株式数の割合は23.43%であります。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,613,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,273,100	52,731	-
単元未満株式	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	6,888,800	-	-
総株主の議決権	-	52,731	-

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式16株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式 数(株)	他人名義所有株式 数(株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社駅探	東京都港区西麻布 四丁目16番13号	1,613,900	-	1,613,900	23.43
計	-	1,613,900	-	1,613,900	23.43

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,433,273	1,599,884
売掛金	502,266	447,647
原材料及び貯蔵品	82	64
仕掛品	802	13,007
その他	64,814	59,019
貸倒引当金	1,483	1,322
流動資産合計	1,999,755	2,118,301
固定資産		
有形固定資産	110,107	88,357
無形固定資産		
ソフトウェア	263,493	221,504
その他	23,591	25,698
無形固定資産合計	287,084	247,202
投資その他の資産	128,238	124,973
固定資産合計	525,431	460,533
資産合計	2,525,186	2,578,835
負債の部		
流動負債		
買掛金	76,406	82,851
1年内返済予定の長期借入金	80,000	80,000
未払金	146,697	90,902
未払法人税等	77,322	95,299
賞与引当金	26,038	14,711
役員賞与引当金	21,080	-
その他	87,643	67,648
流動負債合計	515,189	431,413
固定負債		
長期借入金	240,000	200,000
資産除去債務	10,316	10,356
固定負債合計	250,316	210,356
負債合計	765,506	641,769
純資産の部		
株主資本		
資本金	291,956	291,956
資本剰余金	291,956	295,044
利益剰余金	2,050,160	2,180,026
自己株式	874,392	829,961
株主資本合計	1,759,679	1,937,066
純資産合計	1,759,679	1,937,066
負債純資産合計	2,525,186	2,578,835

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	1,336,044	1,445,756
売上原価	505,872	523,921
売上総利益	830,171	921,834
販売費及び一般管理費	593,051	646,104
営業利益	237,120	275,730
営業外収益		
受取利息	133	167
営業外収益合計	133	167
営業外費用		
支払利息	1,077	877
為替差損	16	20
営業外費用合計	1,093	897
経常利益	236,160	275,000
特別損失		
固定資産除却損	-	2,646
特別損失合計	-	2,646
税引前四半期純利益	236,160	272,353
法人税、住民税及び事業税	68,371	90,674
法人税等調整額	16,376	71
法人税等合計	84,747	90,602
四半期純利益	151,412	181,751

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	236,160	272,353
減価償却費	61,736	68,168
貸倒引当金の増減額(は減少)	314	161
賞与引当金の増減額(は減少)	28,646	11,327
役員賞与引当金の増減額(は減少)	34,500	21,080
返品調整引当金の増減額(は減少)	2	-
受取利息	133	167
支払利息	1,077	877
固定資産除却損	-	2,646
売上債権の増減額(は増加)	66,319	54,618
たな卸資産の増減額(は増加)	142	12,187
仕入債務の増減額(は減少)	8,094	6,444
未払金の増減額(は減少)	45,045	55,810
その他	668	8,236
小計	264,220	296,138
利息の受取額	133	167
利息の支払額	1,063	841
法人税等の支払額	108,323	75,319
営業活動によるキャッシュ・フロー	154,966	220,145
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,299	745
無形固定資産の取得による支出	27,337	8,438
投資活動によるキャッシュ・フロー	30,637	9,183
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	40,000	40,000
ストックオプションの行使による収入	-	47,520
配当金の支払額	51,953	51,869
財務活動によるキャッシュ・フロー	91,953	44,349
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	32,375	166,611
現金及び現金同等物の期首残高	1,330,782	1,433,273
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,363,158	1,599,884

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
広告宣伝費及び販売促進費	292,858千円	324,778千円
賞与引当金繰入額	5,476	5,203
貸倒引当金繰入額	682	372

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金	1,363,158千円	1,599,884千円
現金及び現金同等物	1,363,158	1,599,884

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	51,884	10.00	平成26年3月31日	平成26年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月10日 取締役会	普通株式	51,884	10.00	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	51,884	10.00	平成27年3月31日	平成27年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月9日 取締役会	普通株式	52,748	10.00	平成27年9月30日	平成27年12月7日	利益剰余金

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動がありません。

(持分法損益等)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
関連会社に対する投資の金額	49,000千円	49,000千円
持分法を適用した場合の投資の金額	25,763	13,159
	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
持分法を適用した場合の投資利益(は損失)の金額	7,032千円	12,604千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	コンシューマ向け 事業	法人向け事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,005,184	330,860	1,336,044	-	1,336,044
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	1,005,184	330,860	1,336,044	-	1,336,044
セグメント利益又はセグメント損 失()	234,819	126,125	360,944	8,538	352,406

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに該当しない新規事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な
内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	360,944
「その他」の区分の損失()	8,538
全社費用(注)	115,285
四半期損益計算書の営業利益	237,120

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第2四半期累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）	合計
	コンシューマ向け 事業	法人向け事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,107,006	338,749	1,445,756	-	1,445,756
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	1,107,006	338,749	1,445,756	-	1,445,756
セグメント利益又はセグメント損 失（ ）	303,054	105,273	408,328	17,062	391,266

（注） 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ヘルスケア事業及びその他新規事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	408,328
「その他」の区分の損失（ ）	17,062
全社費用（注）	115,535
四半期損益計算書の営業利益	275,730

（注） 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、従来報告セグメントである「駅探モバイル事業」及び「ASPライセンス事業」をそれぞれ「コンシューマ向け事業」及び「法人向け事業」に名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	29円18銭	34円86銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	151,412	181,751
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	151,412	181,751
普通株式の期中平均株式数(株)	5,188,484	5,213,035
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	34円33銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	80,770
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期累計期間は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第14期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）中間配当について、平成27年11月9日開催の取締役会において、平成27年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	52,748千円
1株当たりの金額	10円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成27年12月7日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月9日

株式会社 駅探
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 毛 利 篤 雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三 木 康 弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社駅探の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第14期事業年度の第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社駅探の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。